オピニオン＆フォーラム

マスク依存社会

耕論

新型コロナウイルスの影響で、マスク姿の人が目立つ。もともと日本には、花粉症予防などでマスクをつける人も多い。今回の騒動で加速した「マスク依存社会」の先には、何が待ち受けるのか。

元気な人の予防なら不要

1973年生まれ。専門は血液内科。医療弱者が受診しやすいよう駅ビルにナビタスクリニックを開設。感染症にも詳しい。

久住（くすみ） 英二（えいじ）さん 内科医

[illegible]

円滑な意思疎通 考える時

全日空の客室乗務員をへて、現在、ビジネスマナー研究所株式会社代表取締役、日本接客リーダー育成協会代表理事。

藤村（ふじむら） 純子（じゅんこ）さん 接客戦略コンサルタント

[illegible]

「顔隠したい」心理広がる

1953年生まれ。専門は社会心理学。顔とコミュニケーションの関係を研究。共著に「新・自己理解のための心理学」。

吉川（よしかわ） 茂（しげる）さん [illegible]大学教授

[illegible]

多事奏論

編集委員 吉岡 桂子

隠される情報 声をあげなければウソは続く

ひとりの医師が死んだ。[illegible]

[illegible]

ことばサプリ やさしい日本語

お役所言葉もバリアフリー

「たすけてください。てがみをいっぱいもらいましたけどよめません。みなさん、おしえてください」。こんな言葉が、画像付きでツイッターに投稿されました。発信は東京都内のネパール・インド料理店。

「てがみ」というのは、都からの「飲食店における受動喫煙防止対策にかかるアンケート」。ほどなく「みせでおきゃくさんがたばこをすいますか、というしつもんです」など投稿への反応が来ました。店の経営者はネパールから来日して18年。漢字が多い文面は難しいそうで「とても助かりました」と話します。

「お役所言葉」は硬くなりがちですが、外国にルーツをもつ人がお隣さんになる時代。約160カ国・地域からの10万人の外国人が住む横浜市では「やさしい日本語」での発信が進んでいます。使うのは、日本語初級レベルの1500程度の語彙と簡単な文法。これで役所がつくる文章の8割を言い換えることができるそうです。受け身形などは避け、漢字には読みがな。「国や市の負担で医療を受ける」→「医療を受けることができます。国や市がお金を払います」などと表現も工夫します。

「母語もさまざま。英語より『やさしい日本語』の方が分かるという人が多い」と広報課。文が難しすぎるかどうか診断する「書き換え支援システム」も採り入れました。システムを監修した庵功雄・一橋大教授（日本語学）は、やさしい日本語の「居場所作り」としての役割を挙げます。「外国から来て、ことばに不安を抱える人々には安心感が何より大切。意味を補い、必要な情報を簡潔に整理して伝える『日本語の翻訳』が必要でしょう」

誰にでも分かりやすい「バリアフリーの日本語」とは。新聞も学ぶことは多いと感じています。

（校閲センター・丹羽のり子）

◇朝日新聞のニュースサイト「ウィズニュース」（withnews.jp）では「やさしい日本語ニュース」を原則毎週土曜日に配信しています。